

カフチェッカー

【禁忌・禁止】

・接続チューブは同一患者に対してのみ使用し、再使用禁止。使用後は廃棄し、再滅菌したり再使用したりしないこと。

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造等

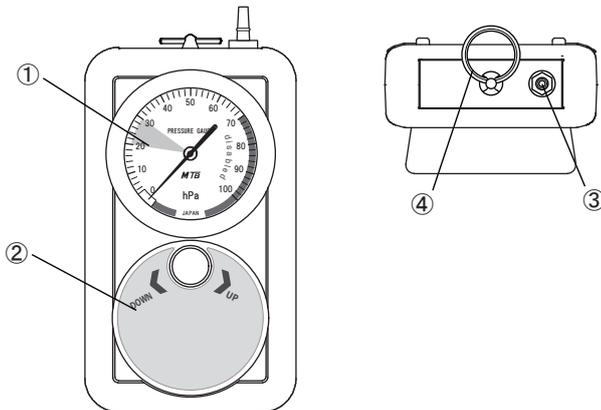
本品は、大容量・低圧カフ付きの気管内チューブ又は気管切開チューブと併用し、カフの拡張、収縮及びカフ内圧を制御するためのインフレーターである。

1) 構成

- (1) 本体
- (2) 接続チューブ (付属品)

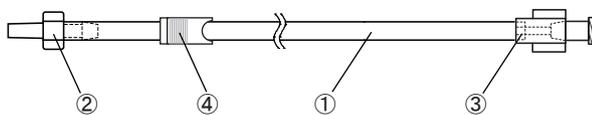
2) 形状

- (1) 本体 (正面) (上面)



- ① 圧力計
- ② ポンプ駆動ハンドル
- ③ ルアー接続部
- ④ 吊り具

(2) 接続チューブ



- ① チューブ (約 100cm)
- ② ルアースリップコネクタ (気管チューブ側)
- ③ ルアーロックメスコネクタ (本体側)
- ④ 開閉クランプ

【使用目的、効能又は効果】

気管内チューブ又は気管切開チューブが体内にある場合、チューブのカフに空気を注入するために用いる。空気を送るポンプと、カフの過膨張を防ぐために圧力を表示する圧力計を備えている。

【品目仕様等】

1. 測定範囲：0～70hPa
2. 測定精度：±4hPa (20～70hPa)
3. リーク：-0.5hPa 未満 (30hPa で 30 秒間放置した場合)

【操作方法又は使用方法等】

1. 本体に接続チューブを取り付け、開閉クランプを閉じる。
2. 圧力計が 60hPa を示すまでポンプ駆動ハンドルを時計方向に回して加圧し、加圧した値が 2～3 秒間維持されることを確認する。

本品の使用前に、カフに異常がないことを確認すること。挿管及び抜管の際には、あらかじめシリンジ又はバキュームを用いてカフの空気を完全に抜くこと。

3. 接続チューブを介して気管内チューブ又は気管切開チューブのカフインフレーションラインを接続する。次に、開閉クランプを開く。
4. ポンプ駆動ハンドルを時計方向に回して 60～70hPa までカフを拡張させる。これによりカフが気管壁と密に接触した状態となる。
5. すぐにポンプ駆動ハンドルを反時計方向に回して、圧力計の目盛が緑色の範囲に入るまで空気を放出し調整する。
6. 所定のカフ圧に調整したら、気管チューブ側のコネクタを外す。
7. 気管チューブのカフインフレーションラインに接続することにより本品はモニターとしての機能をする。圧力上昇をモニターしたり、ポンプ駆動ハンドルを回すことにより調整することができる。

穿刺または肺炎のリスクがあるため、体内に入った際のカフ内圧 20hPa 以上が推奨される。また気管粘膜の虚血症のリスクのため、30hPa 以下を推奨する。

20～70hPa の範囲において測定精度は ±4hPa である。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

**1) 本体に振動や衝撃を与えないで下さい。

【保守・点検に係る事項】

1. クリーニング

本体のクリーニングは必要に応じて行うこと。柔らかく毛羽立ちのない布を用い、石けん水で湿らせて拭き上げること。

本品を液体に浸さないこと。本品の表面の消毒清拭の際は、市販のアルコール性消毒液で拭き上げること。本品は、滅菌したり機械的に洗浄することはできない。

【包装】

本体：1 個/箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

* 製造販売業者：トクソー技研株式会社

住所：〒879-0232 大分県宇佐市大字大根川 318 番地

電話番号：0978-33-5595